Engineer

文書作成

38 件の実績

システムの各部分を結び付ける

「文書作成」に分類した実績は、稼働するシステムの一部分を示しています。その部分を他の業務につなげるお手伝いをします。 構築した人に電話しなくても自社の担当者が運用できるよう、引き継ぎ資料、運用手順書、マニュアルを整えます。

サービスを見る お問い合わせ →

比較できる課題を探す

ご自身の状況に近い事例をご覧ください。振り返りでは、技術名だけでは分からない、結果を導いた判断を説明しています。 14部門を支える共通インフラ計画 — 14 共通インフラ計画の対象となった研究部門

14部門を支える共通インフラ計画 お問い合わせ →

14部門を支える共通インフラ計画

研究機関の14部門に関わるインフラ全体の枠組みを設計。柔軟なモジュール、統一されたデータパイプライン、長期的な定着を支える体系的なサポート方針を備えた。

マニュアル付きPower BIプロジェクト8件を提供

Microsoft Power BIをNodeJS APIとPython FastAPIに連携させ、データ分析と可視化のための8件のPower BIプロジェクトを、詳しいマニュアルとともに納品した。

電力・GISデータレポート500件を公開

詳細な調査と問題解決に基づき、地理情報・時系列の大規模データを正確に読み解く、電力・GISデータ分析レポート500件を公開した。

Linuxサーバーを守る1,000件のRBACルールを作成

開発者、アプリケーションインスタンス、PostgreSQL、MS SQL、その他のLinuxサーバーに1,000件のRBACルールを実装して不正アクセスを防ぎ、データセキュリティを強化。Ansibleによる自動化として記録した。

50,000語のソフトウェア文書を執筆

GitHub、Craft、ConfluenceでMarkdownを使い、50,000語の詳しいソフトウェア文書を執筆。知識の蓄積と工程の透明性を確保した。

業務要件を収集・分析

業務要件を収集・分析し、データガバナンス基準に沿った、実装可能な機能とユーザーストーリーへ落とし込んだ。

チームの意思疎通と協働を改善

Slack、Mattermost、1Password、Jiraを導入してチームの意思疎通と協働を改善し、8,000時間の作業を削減した。

APIを100%の一致でHuma v2へ移行

HTTP APIの649パス・760操作をFiberからHuma v2へ移行し、サーバーが登録するルートと公開するOpenAPI記述の100%一致を達成・維持した。

go-taskの自動化ターゲット578個を作成

ネイティブ、Docker、HTTPSの開発モード、静的検査、テスト、データベース、デプロイをカバーする、go-taskの自動化ターゲット578個を作成した。

iOS 26「Liquid Glass」デザインシステムを設計

iOS 26の「Liquid Glass」を基にデザインシステムと正本となるコンポーネント一覧を設計し、UIのばらつきを静的検査で防いだ。

英語・デンマーク語のi18nシステムを構築

458個の名前空間ファイルに言語ごと12,027件のメッセージを持つ英語・デンマーク語の国際化基盤を構築し、用語と1ファイル400行の上限を静的検査で守った。

6言語に警告ゼロの基準を設定

Go、TypeScript、SQL、Python、Shell、Markdownの6言語に警告ゼロの品質基準を設け、pre-commitフックで適用した。

268検査を持つリポジトリの検査基盤を構築

登録済みコミット検査268件、静的検査ルール277件、独自ESLintルール15件からなるリポジトリの検査基盤と、検査自体を試す146件のテストを構築し、人のレビューだけに頼らずビルドで基準を守るようにした。

継続的なセキュリティ検査を運用

コード検査、DAST、依存関係・脆弱性検査、SBOM生成、秘密情報検査、SHA固定のActionsと、21件の文書によるセキュリティ監査を組み合わせた継続的なセキュリティ活動を確立した。

リポジトリで定義するインフラ

12,065行のYAMLにわたる19本のAnsible プレイブックと34個のロールで自社インフラを構築し、すべてのプレイを冪等にして、稼働中のホストを宣言した状態へ収束させた。

復元方法を明示したバックアップ自動化

resticのバックアップを、保持期間、整合性検査、毎月の復元テストとともに自動化し、ストレージの有効化と実環境での復元検証を別の運用手順として記録した。

読み取り専用のホストレポートロールを7個構築

事実、アクセス、git、指標、トラフィック、セキュリティ、プロバイダー資産を、稼働ホストからMarkdownにまとめる7個の読み取り専用レポートロールを構築し、実行で測定していない数値は出力しない規則を設けた。

認証情報漏出後に対象範囲の規則を記述

構成変更によって別会社の資産一覧、ファイアウォール許可、文章が混入したことを受け、リポジトリの対象範囲を定める規則を記述し、隔離した残存物も除外せず秘密情報検査の対象に残した。

22静的検査のコミットゲートを構築

HTML、CSS、JavaScript、Python、YAML、Markdown、Shell、リンク、綴り、秘密情報、組版を対象に、1行で説明できる検査22個と詳しい説明が必要な検査5個からなるコミットゲートを構築し、警告扱いや行内抑制を認めない方針にした。

27種類の文字サイズを6段階の体系に統一

隣り合うサイズの差が0.6%しかないものもあった27種類の文字サイズを、長3度比による6段階の体系へ置き換え、28種類目を拒否する静的検査を作成した。

32ページを両テーマでアクセシビリティ検査

両配色テーマの代表32ページにWCAG 2.2 Level AA検査を実装し、適合記録とAAA基準1項目の検査を備え、基準1.4.13の部分的な達成を明示した。

配色を28色に限定

配色を文書化した28色に限定し、描画されるのに未記録、記録されるのに未使用、測定誤り、リテラルによる別表記、既存色との知覚的距離が0.02以内、という場合に失敗する静的検査を設けた。

637行の印刷スタイルシートを構築

ブラウザーがダーク表示を優先する場合に白地に白で印刷される行内見出しなど、文書化した4つの描画エンジンの挙動に対処する637行の印刷用スタイルシートを構築した。

51件の文書化した施策として開発を運営

54件の計画文書にわたる51件の施策としてサイト開発を進め、それぞれに未完了項目、測定結果、採用しなかった判断を記録。AIエージェント対応で見つかった8件中6件も、理由を記して見送った。

文書を独自の静的検査で管理

文書に、引き下げのみ可能なファイル別行数上限、目次要件、実在パス検査を設けた。完了扱いの9計画中6計画に未完了項目があり、コミットを制御する14タスクがどの文書にも記載されていないことを検出した。

10,242行の品質ゲート自体に静的検査を適用

リポジトリ最大のコード群でありながら検査対象外だった品質ゲートのJavaScript 10,242行に整形・静的検査を適用し、13件の指摘を抑制せずに修正した。

PDF/UA-1プロファイルの106項目中106項目に合格

9文書のPDF/UA-1検証を記録し、設定済みアクセシビリティプロファイルの検査106項目中106項目に合格した一方、アーカイブ版は146規則のうち1項目で不合格だった。

すべての静的検査ルールをエラーに設定

Python静的検査の全ルールをエラーとして有効にし、1,815件の指摘を0件まで解消。少数の例外には理由を書き、うち2件はコメントだけでなく検査によって根拠を守った。

522行のQR符号器を同梱

実行時の3つ目の依存関係を追加せず、GF(256)上のReed-Solomon、固定モジュール配置、8つのマスクパターンを持つQR符号器を522行で同梱し、独立に実装した復号器で完成行列を読み戻して検証した。

フックと品質ゲートの不一致を発見

同じ検査を行うという文書の記述に反し、コミットフックと品質ゲートが異なる検査を行っていたことを、一覧を比較するテストで発見。手動でしか動かなかった5個は履歴書の文章を検査するものだった。

すべての文字列をコンテンツツリーへ移行

実際には使われていないと気づけない翻訳と、実績の3分の1だけを黙って評価する検査を発見し、利用者向け文字列をすべてPythonから3言語874ファイルのコンテンツツリーへ移した。

言語間の数値照合を構築

英語原文にある数値の欠落と、対象言語に合わない表記で失敗する言語間コンテンツ検査を構築し、指標が抜けたデンマーク語説明2件と英語式引用符を使うウクライナ語16箇所を検出した。

全FFI呼び出しを検証する構文解析器を作成

手書きの仮Cヘッダーで、削除済みの3関数を呼んでもコンパイル・リンクが通り実行時に落ちた問題を受け、実際の7,308行のCヘッダーを読み、全呼び出し箇所、列挙定数、ポインター所有クラスのfinal指定を検証する構文解析器を作成した。

全17アイコンに読み上げ用の名前を付与

送信ボタンが「arrow up circle, button」と読み上げられる問題を受け、アイコンだけの全操作要素にスクリーンリーダー用の名前を付け、アイコンから8行以内のラベルを必須とする静的検査を作成した。

利用者を責めないエラーメッセージに改訂

実際にはプロバイダーがアプリ専用パスワードを要求していたのに、サインイン拒否を利用者の入力誤りとするエラー表示を受け、文書化した文体基準に従ってメッセージを書き直し、プロバイダー名を明示するテストを加えた。

公開するすべての部品のライセンスを把握

毎回のビルドで644個のRust crateのライセンス互換性を監査し、1つのcrateのライセンスを書き換えた場合と、再生成せずコアの固定リビジョンを変えた場合に検査が働くことを実証した。

4リポジトリで共通の履歴基準を維持

4つのリポジトリに対し、Conventional Commits、絵文字禁止、帰属トレーラー禁止という共通の履歴基準をコミットメッセージフックで適用し、作業方法を定める48件の指示文書とともに運用した。

6収集処理が省略した入力を明示

6つのレポート収集処理が、未読ファイル、未導入の検査、認識できなかったjournal行など、読み取れなかった入力範囲を明示するよう変更。収集不能と正常なホストが同じページになると確認し、116件の実測サンプルから閾値を定めた。

技術的な取り組みを絞り込む

必要な判断、影響を受ける人々、すでに検討した選択肢をお知らせください。選択に伴う利点と不利益を明確にし、推奨案を文書に残せます。

料金を見る お問い合わせ →

自社の状況に当てはめる

お使いのシステムで「文書作成」がどのように関わっているかをお聞かせください。適したサービスを選び、その業務範囲を定めるお手伝いをします。

サービスを見る

welcome@engineer.company +45 50 10 61 84 デンマーク、コペンハーゲン

このページを持ち歩く

連絡先カード

心を込めて丁寧に制作： D.

CVR 45969703 · Tagensvej 105C, 3. th, 2200 København N

著作権 © 2025 – 現在 · Engineer ApS · すべての権利を留保します。

印刷元： https://engineer.company/ja/categories/documentation/